

生徒でのふれあい④

谷内純一



私は生徒部長でした。いじめをうけていたらしいという生徒を呼んで話を聞きました。当人はなかなか話してくれませんが、そのうち、「パンツを……」とも「もも」と言っていたきりでもまた黙ります。「パンツをどうしたか、話さない。」としゃべりだしました。十数分たつて、やっと話しました。「昼休みに隣の組のUくんと同じ組のKくんに……パンツを脱がされ、……雑巾でマスターベーションを……させられました。同級生たち……とどいて見物してました。」と口籠りながらはなしてくれました。思いもよらない話にはショックをうけ強い怒りを感じました。生徒部会でこの件を報告すると、教員はみな怒りの声をあげました。ひとりの教員が「こんなひどいじめがある学校なんて無くなったっていいんだ。」と叫びました。

結局、主犯格のU君、K君の二人は最長三〇日間の家庭謹慎、見物をしていただいた生徒たちは全員、保護者同席しての校長訓戒となりました。普通、怒りの言葉を聞くのは不愉快なものです。でも「こんなひどいじめのある学校なんてなくなったっていいんだ。」という激しい怒りの声を聞いたとき、私は風が吹き抜けてゆくような爽快感を感じました。そうなんだ。ここで怒らなかつたら、教師じやないとも思いました。

別の話

家庭謹慎期間が夏休み中までおおよそだったので、謹慎中のU君、Y君、W君の三人を学校に登校させて作業をさせる。いわゆる登校謹慎という形をとりました。

ところが学校に電話で通報があり、彼ら三人が昼休み時間に高級乗用車ローレルに乗ってレストラン失流れに行き豪華な食事をとっているというのです。食事を何を食べようとする自由ですが、乗用車免許はだれも取得していませんし、乗用車運転は学校で禁止しています。わたしは喫茶店で若い教員と二人で張り込んでいました。昼休みのチャイムがなつてし

ばらくして三人が駐車場にやってくるので車に乗り込みました。すぐに店から飛び出して行って、U君がエンジン車をブルンと始動させた瞬間にドアをあけました。三人を学校に連れ取り調べをしました。

私はU君を担当しました。Uくんは「あの車はこのもの僕にはたまたエンジンがかかるかどうか試してみたい行。」と言いました。走り出しておしまいなで車を発進させるまにドアをあけたので彼の言いつ分は通っています。通報には触れず「そんなことはないだろ。ほんとうのことではないなさい。」

少し押し問答のあと、しばらく沈黙した後、彼は突然立ち上がり、テーブルをドンと敲いて「ありもしないことを、ごちあげて、これは人権蹂躪だ、裁判所に訴えるぞ。」と大声で言いました。大変な剣幕で、私は、俺ひよつとしたら人権侵害をしているのかな」と思ったほどでした。しばらくして、「でも、君の友達は君とは違うことをいっているそうだよ。」というとき、「誰ですか、そんなうそつきはそれいつに会わせてください。」と言いましたが、取り合いませんでした。十分ほど

今どきの学校②

井上 圭介



病休のピンチヒッターで、赴任していた須崎総合高校を最初の教育委員会の辞令通り、2021・4で退任しました。須崎総合の管理職からは、学年末まで内々の辞令延長打診も受けていたのです

が、つくづく我が身の限界を感じてのことでした。いや、あ寄る年波には勝てないものですね。細かい作業ができなくなりまして。現在の事務処理は文字の大きさはどのようにもできます。成績会議に出席しましたが、全学年、全クラス一枚の資料です。その、文字の小さいこと言ったら、……読めません。で、こりやだめだな、と思いました。

長くやりすぎたと自覚しました。「自分のことは、自分が一番わかっている」との箴言通りです。「他人はそうでも自分とは違う、などの戯言は相手にするな」は私の生活は変わりました。私のこと、とできることを冷静に判断すること。さらに本当のことを正直に言ってくれる人に尋ねること、です。私は元来、2輪車やスキーのように、ふらふらするけど、結果として真っ直ぐ走るというものが大好きでした。でも、今は違います。そんな調子で行っていたら、ずっけけるよと悟ったのです。ゆるり、ゆるり、と参ります。他人から、丸くなったなあと言われるように、です。でも、そうは、いかんどうなぬ。

コロナ後、学校の何が変わったか

～各分会からの報告より～
高教組教文部長 古畑邦明



1月23日、第193回高教組中央委員会が開催された。昨年6月の定期大会以降の取り組みについて話し合われ、新型コロナウイルス感染症拡大第2波・第3波のもとの各学校の様子を知ることができた。以下、主な発言等を紹介する。

【施設・設備面について】
・感染対策としてサーキュレーター（教室の換気のための）、体温を測るモニター、トイレの自動水栓などの感染症対策の施設・環境整備がすすんでいる（複数の職場から）。



・GIGAスクール構想によるICTを活用した授業実践を奨励するためのプロジェクトやスクリーンなどを購入する予算がつき、5台購入した。教室に常設されたわけではないので持ち運びが必要であり活用されていない。
・コロナの感染状況によって臨時休校や学校行事の変更等が生じたとき、生徒・保護者へ緊急に連絡するためのシステム（スマホで簡単に閲覧）に導入される見通し。
【学校行事等について】
・修学旅行について、感染状況によって行き先が関西から四国、県内とかわり、結局中止となった。
・学校行事がなくなったことで生徒同士のかかわりが深まらないう状況が続いた。
・行事中止はやむを得ないかもしれないが、それを失われた時間とするのではなく、行事に代わるホームルーム活動を模索している。

・ソーシャルディスタンスをしっかりとって、体育祭を行ったが、生徒はいきいきしていない。全校生徒がクラス単位で食堂を使つての食事マナー指導が行われた（400円をPTAが補助）。就職に関しては、今年度は希望者全員決まったが、来年度以降が心配。
・年度末に開催している生徒の探究活動の成果発表会を中止する学校もあったが、ICTをフル活用して各教室をオンラインで結び、全校生徒でその成果を共有することができた。
・図書室のコロナ対策として座席のソーシャルディスタンスをとっている。生徒のカウンター当番をやめているところも。
【ICTの活用と課題について】
・ZOOM（パソコンやスマートフォンを使って、セミナーやミーティングをオンラインで開催するために開発されたアプリ）を用いた授業もしていたが、難しい面もあって、その一方で「学校がなくてもよい」という見方があることには反対。

・一斉休校時に四十町の支援で生徒全員にタブレットが支給された。教員は使いこなせておらず、研修もしているが全体のものになっていない。コロナを理由に、この際面倒なものはやめてしまおうという方向が強いように感じる。
・職朝は週一回。職員会は月二回から一回に。それではないのか。そもそも教育とは面倒くさいもの。それを避けてしまつては中身がなくなるのではない。
【障害児学校の様子について】
・障害の重い生徒が多く、通学生生の授業は再開しているが、病棟生については現在閉鎖中で17日しか授業できていない。教育保障が課題。
・障害児学校の寄宿舎、寄宿舎指導員、夜間の非常勤職員、管理人、寄宿舎生について、コロナの簡易検査（抗原検査）を行った。陽性者はいなかった。

発言の中で特に印象に残ったのは、コロナを理由にこれまで培ってきた学校文化の大切な部分が失われようとしているのではないか、との指摘だ。子どもたち一人ひとりの思いに寄り添いながら成長を支援する教育の営みは、ある意味で「面倒くさい」ことの繰り返しである。コロナを理由に職朝や職員会、学校行事などを中止することは反対だ。コロナだからこそ対面で意見を交わす場面を大切にすべきではないか。学校行事を一方的に中止してしまうのではなく、生徒と共にできることを模索する場面があつてほしい。
いまICTの活用が目ざされているが、こうした営みをサポートするためのツールとして活用するのか、それとも効率重視の視点から「面倒くさい」ことをやめるために導入するのか、大きな分かれ目となる。県は2月県議会で高校・特別支援学校のすべての児童生徒にタブレット端末の配備を2021年度内に進めることを決めた。国の政策として押し進められたICTの大きさをどう現場で受け止めるのか、教職員の専門性が試される。